

2025 年度

2/2 入学試験

国 語

注 意

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
2. 放送の指示にしたがって、問題冊子に受験番号・氏名を記入します。
次に、解答用紙の指定された場所にQRコードシールをはり、受験番号・氏名を記入します。
3. 試験時間は 45 分です。
4. 問題は、1 ページから 16 ページまで印刷してあります。試験が始まったら最初に確認し、足りないページがあったら申し出てください。
5. 答えはすべて解答用紙に記入してください。
6. 試験が終わった後、問題冊子・解答用紙とも回収します。
7. 記述問題では、指定された字数の 8 割以上は書いてください。ぬき出し問題では、指定された字数で答えてください。どちらの場合も、句読点やかぎカッコなどの記号も字数にふくまれます。

共立女子中学校

受 験 番 号	氏 名
B	

1 次の1～8の――線をつけたカタカナを漢字で、漢字の読みをひらがなで書きなさい。

1 ここに着くまでは苦勞したが、フクロはもう少し楽な道のりだろう。

2 続投を望まれたが、市長はそれをコジした。

3 エン焼しやうを防ぐために生け垣がきや空き地を作る。

4 この熊手には豊作を願って小さなタワラがついている。

5 ただ捨てるだけではなかなかカタツかないだろう。

6 祖母の着物を羽織に仕立て直してもらった。

7 犬が構かまってほしそうにしている。

8 小さな花が殺風景な部屋を明るく変えた。

② 図書委員の共子さんは他の数名と「図書だより」を書くことになりました。次の会話文と表A、Cを参考に、後の問いに答えなさい。

共子…「児童・生徒の読書時間が短い」と言われるけれど、表Aを

見るとたしかに ① みたいだわ。

立子…表Bからは、 ② ことがわかるね。

愛子…表Aからは、 ③ ということも言えるよ。

共子…そうだね。家にいると、本なんて読む時間がなさそうなのね。勉強もしなくてはいけないし。昔とちがって、今はみんなSNSやゲームに時間をさいている人が多いのだと思う。

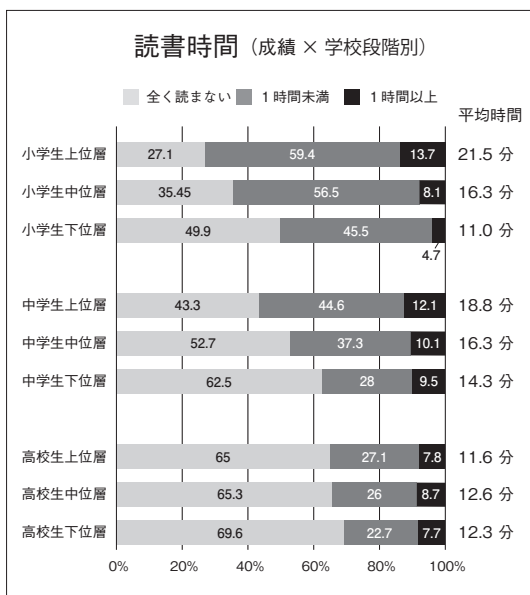
立子…ちよつと待って。表Cを見て。 ④ ってことかな。

愛子…本当だね。スマートフォンがあってもなくても、読む人はたくさん読み、読まない人はまったく読まない……。ふだんあまり本を手にしらない人たちの読書はなれがこれ以上進まないように、小説に限らず新しい種類の本と出会う、そんな記事を書きたいね。

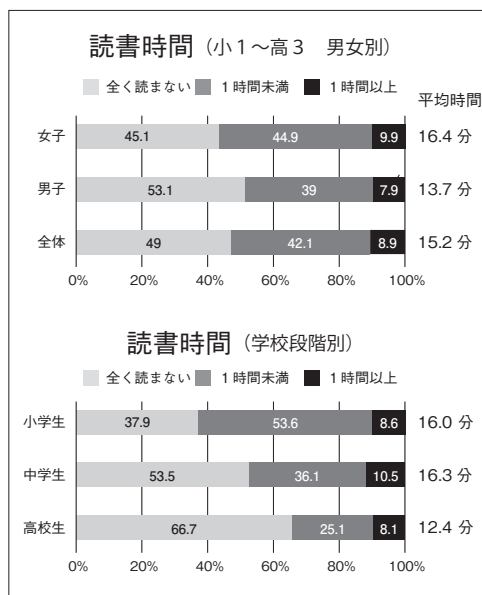
共子…それなら ⑤ のはどうかしら？

二人…いいね！

表B

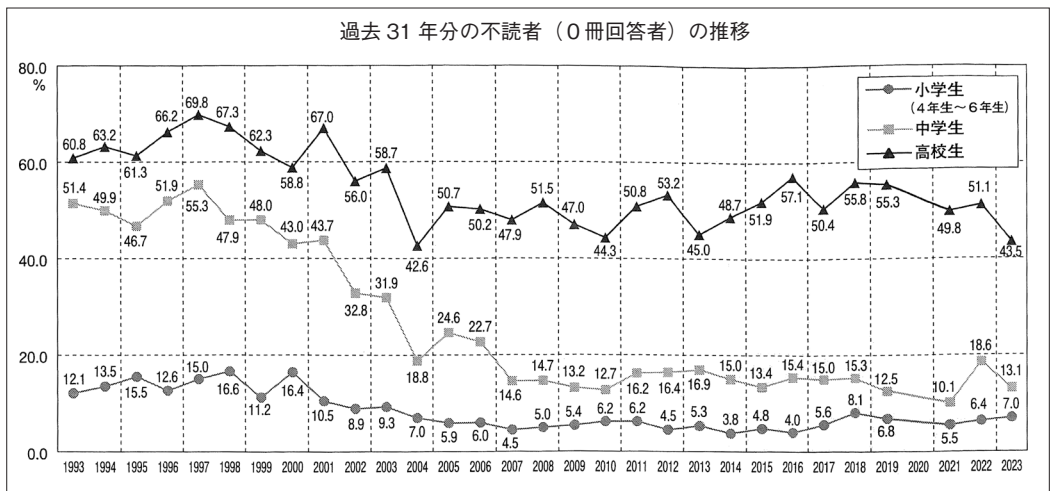


表A



(ベネッセ教育総合研究所「子供の読書行動の実態 ―調査からわかること―」(2023年10月19日)より作成)

表 C



(全国学校図書館協議会『学校図書館 2023 年 11 月号』より)

- 1 ① に入ることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 男子と女子に差はない イ 学年のちがいは関係ない ウ 中学生がとくに短い
エ 約半数がまったく読まない オ 平均すると三十分は読む
- 2 ② に入ることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 成績と読書時間は関係がない イ 成績と読書時間は大きく比例している
ウ 高校生は成績上位層の読書時間が長い エ 小学生は成績下位層も読書をしている
オ 中学生までは成績上位層の読書時間が長い
- 3 ③ に入ることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 中学生男子の読書時間が特に短い
イ 読書時間の平均は中学生の上位層が最も長い
ウ 学年があがるにつれ読書時間の平均が増える
エ 読書時間の平均は高校生になると短くなる
オ 女子は学年問わず全体的に読書時間が長い
- 4 ④ に入ることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 本をまったく読まない人の割合がこの十年で倍に増えている
イ 本を読まない人の割合はここ二十年間あまり変わっていない
ウ ニ〇〇〇年ごろから本を読まない人が少しずつ増えている
エ 高校生で本を読まない人の数が特に増えてきている
オ 中学生は本を読まない人の数に大きな変化が見られない
- 5 ⑤ に入ることはとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。
ア 効率のいい時間の使い方を成績がいい人にインタビューする
イ 学生時代にどんな小説を読んでいたか、先生に語ってもらう
ウ 学生たちの間でどんなものがはまっているか、道行く中学生に取材する
エ いろいろな分野のおもしろい本を読書好きの人たちにすすめてもらう
オ 街の人たちに、この地にゆかりのある書物を紹介してもらう

3 次の詩を読み、下の問いに答えなさい。

星を放つ

長尾 早苗
ながお さなえ

I 深夜に起きて

ことばを並べていると

時折カーテン越しに

① 春の空の星が

瞬^{またた}いているのがわかる

II ② わたしは星を放つ

ことばがああ星に届くのは

後何万年？

その時に

わたしの声が

わたしの書物が

記憶^{きおく}として

③ ああ星に辿り着けばいい

1 線①「春の空の星」とありますが、「わたし」は「春の空の星」をどのようなものとしてとらえていますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 「わたし」を追いつめるもの

イ すべてを新しくするもの

ウ 「わたし」があこがれているもの

エ 「わたし」を厳しく導くもの

オ 「わたし」を温かく見守るもの

2 線②「わたしは星を放つ」とありますが、これはどのようなことを表現していますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 「わたし」の内にあるものをことばにすること

イ 相手に伝わるようなことばをなんとか探し出すこと

ウ 大切なことばを身の回りから集めること

エ 届かないかもしれない思いを口に出すこと

オ 気づかなかった本当の気持ちを伝えること

3 線③「ああ星に辿り着けばいい」とありますが、ここから「わたし」のどのような思いが読み取れますか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア だれにも告げていない「わたし」の本当の思いにいつか気づいてほしい。

イ 「わたし」が生み出したことばや思いが少しでも多くの人に届いてほしい。

ウ 「わたし」が大切につむいだことばがいつかだれかのもとに届くとよい。

エ 「わたし」の思いや苦しみをことばにすることで美しいものへと変えたい。

オ 「わたし」の思いやことばが時間をかけることで深まっていくとよい。

Ⅲ ④ この部屋の中では

日が差す時間と

光と

星と

植物だけが友達である

書くことに

孤独を感じないのは

いずれこのことばが

本になって

あなたに届く過程を知っているから

Ⅳ だからわたしは

雨に負けない

涙に負けない

今日という日を

書き連ねていく

(『フレア』七月堂による)

4 — 線④ 「この部屋の中では／日が差す時間と／光と／星と／植物だけが友達

である」とありますが、この表現からわかるのはどのようなことですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ことばをつむぎだすのは「わたし」自身であるということ

イ 「わたし」の心が少しずつ満たされていくということ

ウ 伝えたいことばがどんどん思いうかぶということ

エ 「わたし」がいろいろなものから発想を得ているということ

オ 「わたし」が自然との対話を大切にしているということ

5 次の会話文ではこの詩をどのように朗読するかについて話しています。会話文中の「ア」の中からふさわしくないと考えられるものを一つ選び、記号で書きなさい。

共子… 「わたし」の信念のようなものを感じる詩ね。リズムもよくて声に出して

読みたくなるわ。

立子… ア Iは詩作する「わたし」の様子を描写した場面だから、落ち着いた感じで読むといいね。

共子…

イ IIの部分からは心のゆれが感じられるから、ためらいながら読んだほうがいいかしら。

立子…

ウ IIIは前向きな強さを感じるから、堂々と読んだほうがいいと思う。

共子… エ IIIの最後の三行からは「わたし」の希望を感じるので高らかに読みたいわ。

立子…

オ IVは特に「わたし」の決意を感じるからさらに堂々と読む方が伝わるね。

④ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

中学一年になったとたんに、シンサクは、^{注1}がぜん、働き者になって、家じゆうをびつくりさせた。だれもなんとも言わないのに、日曜日になると、朝早くから、べんとうを持ってとびだし、夕方、^{注2}サツをにぎって帰ってくる。① 去年、洪水で落ちた橋の修繕^{しゅうぜん}の^{注3}土方、よその家のこやしの運搬^{うんぱん}、なんにでも出かけていった。

このごろは、百姓^{ひやくしやう}も不景気で、家に入れば、小言きり出ない父ちゃんも、「やっぱす、中学にはえると、べつだな」という感想をもらし、母ちゃんなどは、ときどき、「シンサク、帰りにナットウ三十円買ってきてけろな」とたのんだりする。

そういうときは、母ちゃんは、金をよこさない、母ちゃんのサイフに金がないからだ。シンサクは、自分の箱から三十円出しながら、ちよつといい気もちになる。父ちゃんたちは、小さい子ばかりの家のなかに、シンサクというかせぎ^{かせぎ}人がでたことを、うれしく、重宝に思っているのだ。

けれども、シンサクにしてみれば、そう重宝がられてばかりもいられないのだった。シンサクには決心したことがあるのだ。

四月十日、新築された中学校のりっぱな講堂で、盛大な落成式兼始業式^{けんしぎょうしき}があった。村長さんはじめ、えらい人の演説があったあとで、シンサクたちもお祝いの菓子包み^{かしづつ}をもらった。それからわいわいいながら、二階の新しい教室へ上っていった。【A】

先生も小学校のときのタケシ先生が、生徒といっしょに中学の先生になったのだから、みんなの意気は、天をつくようだった。先生は、もったいないほどきれいな黒板に字を書いて、中学生たる心得、新しい教室の掃除^{そうじ}のしかたをいって聞かせたあとで、

「さあ、何かまだ聞きたいことあるか」と聞いた。

「ハイ！」勉強のときには手をあげたことのない、愛嬌者^{あいきやうもの}のトキオがいった。

「おい」と先生が指すと、

「先生、今度の遠足、どこっしや？」

② シンサクをぬかして、みんなが笑った。

「おめえ、遊ぶことばかり考えてるな」先生も笑いながら叱^{しか}つたあとで、少しまじめな顔になり、「今度の春の遠足は、金のかからないように近いところにする。そのかわり、^③夏はハツコマ山登山だ。人生には、たのしいことも、苦しいこともある。おめえたちも、これから、人生の坂をのぼりはじめるところだ。それで、先生、考えて、記念のために登山を計画したんだ。みんな、夏までよく家の手つだいしろ」

教室のなかは、^{注4}ちよつとま、息をのんだように静かになって、それから、まえより大きくわア……という声があがった。【B】シンサクは、胸のなかで、スウと寒くなった。遠足と聞くと、いつもそうなるのだ。遠足といえ、いつも「いかせる、いかせない」で、家のなかでもめて、けつきよく、いままで一度も遠足というものにいったことがない。

「ああ、父ちゃん、なんと言うべや」

先生は、説明を続けていた。登山だけなら、食い物のほかは、金はいらない。だが、帰りに温泉で一泊したい。それには、三百五十円くらいあれば、いいだろう。

「よし、おら、自分で金ためる！ 五百円ためる！」

みんなガヤガヤさわいでいるなかで、シンサクは、ひとり、深い穴のなかに^{すわ}坐っているように、だまりこみながら、こう決心したのだ。

はじめて出た橋の土方で七十円とった。みやげにナットウを買って、三十円へった。次の日曜日、橋の材料かつぎにがんばって、百円。けれども、母ちゃんに七十円借りられた。はじめのうちは、まるで雪のなかで北風にむかってゆくように、一歩前進二歩後退のときもあったが、それでも、貯金箱のなかのサツは、ジリジリとたまっていった。【C】

それにカツコウが鳴きだして、田植えがはじまると、もうこっちのものだった。ハナトリ、シロカキ、^{なえ}苗はこび。そこらじゅう仕事だらけ、ということは、つまり金だらけということだった。二週間の^{注5}農繁休暇中に、たちまち五百円は突破した。けれど、シンサクは働くのをやめなかった。やめれば、

④

なくなるからだ。

外で仕事をしているとき、ふと気がつくと、赤んぼのときから目のなかにあったハツコマ山の背中が、低い山なみの上から、こちちを見ている。ところどころに雪のこって、白まだらの大蛇^{だいじや}がとぐる巻いて、ねているようだ。あの背中、ドンドン！ とふんづけてやるぞ！ シンサクは、田のアゼをとんで歩きながら考えた。

七月二十二日の朝、先生から登山旅行の注意があった。二十四日の朝、六時半、校庭集合、七時出発。金は二十三日、当番が集める……

「あんまりうまくいきすぎちゃった」シンサクは、箱のなかの八百何円かを思いだし、からだじゅうムズムズしながら、こう考えた。

「あまりは、母ちゃんにやる。母ちゃんが、けさ、いもを^{はやば}早掘りして売りにいくっていったの、とめんべ」

あかるい気もちで家のそばまでくると、子どもたちが、ふつうでない顔で、^{まや}馬屋をのぞきこんでいた。シンサクはすぐ寄っていっ

た。

「べこ（牛）、母ちゃん、畑にいますに、なまいも、^{注6}十貫め食ったと。いま、獣医^{じゅうい}さん来て、下剤^{げざい}かけて、ビリビリくだったんだ。千円とられたど」妹のシズ子が、まるでおとなのような顔で、シンサクを見あげて言った。

ああ、やっぱり！ だめか！

シンサクは、胸がスウとつめたくなつた。すぐ裏から納戸^{なんど}にかけこみ、貯金箱をあけてみた。箱はからだつた。

⑤ 次の日、シンサクは腹がいたいと言って起きなかつた。

ひるすぎ、シズ子が学校から、通信簿^{つうしんぼ}と先生の手紙を持ってきてくれた。成績は六年のときよりずっとよくなり、手紙には、あしたはべんとうだけ持ってこいと書いてあつた。シンサクは、その手紙をまるめて、涙^{なみだ}をふき、はなをかんだ。

七月二十四日、快晴。

六時半……七時。みんな家にいなくなり、母ちゃんも少しして出ていったが、やがて、パタパタぞうりをならして帰ってきた。と思うまに、いきなり、シンサクは、たたきおこされた。

「シンサク、おきろ！ ほれ」

ふとんからひきずりだされてみると、わきに丸く何かつまつたリュックサックがあり、その上にサツがおいてあつた。【D】

「なんだ、いまになつて！ もうみんな、いつてしまったぞ！」

⑥ 泣きながらしゃぶりつくシンサクを、母ちゃんはおさえつけるようにして、服を着せ、リュックをしよわせると、その手にしつかりサツをにぎらせて、家からつきだした。

「登山口まで、トラックにのせてもらえ！ にぎりめし食いながら、いけ！ ぜに、なくすな！」

シンサクには何も聞こえなかつた。何も見えなかつた。シンサクは走った、走った、宙をとんだ。横森をぬけ、県道へ。そこを^{注7}十丁ばかりつつ走って山道へはいると、あとは、上り道だ。目がかすみ、息がくさくなつた。

半死半生で最初の峠^{とつげ}に立ったとき、ああ、下に広がる青田の間を細い細いへびのような、ゲジゲジのような行列が、^{注8}這うように動いていた。【E】

シンサクの目のまえて、その行列は、静かに静かに天までのぼってゆくように思われた。

（石井桃子『においのカゴ』河出書房新社による）

注1 がぜん Ⅱ 急に

注2 サツ Ⅱ お札のこと、このころは一円札や五円札が流通していた

注3 土方 Ⅱ 土木工事の仕事

注4 ちよつとま Ⅱ 少しのあいだ

注5 農繁休暇 Ⅱ いそがしい農作業を子どもたちが手伝うための学校休暇

注6 十貫め Ⅱ 貫めは重さの単位で、十貫めは三十七・五キログラム

注7 十丁 Ⅱ 丁は距離^{きょり}の単位で、十丁で一キロメートルほど

※ 作中には現在の人権意識からすると不適切な表現がみられますが、原作者の意図を尊重し発表当時のまま掲載^{けいさい}します。

― 線① 「去年、洪水で落ちた橋の修繕の土方、よその家のこやしの運搬、なんにでも出かけていった。」とありますが、シンサクが「なんにでも出かけていった」のはなぜですか。その理由を四十字以内で、次の（ ）にあてはまるかたちで書きなさい。

シンサクは、（四十字以内）から

（下書き用）

					シンサクは、
		32			
から					

2 — 線②「シンサクをぬかして、みんなが笑った。」とありますが、ここでシンサクが笑わなかったのはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア タケシ先生が中学の先生になったことがうれしくて我を忘れていたから
イ 自分も何か質問しなければ、トキオに出しぬかれたままだと焦っていたから
ウ タケシ先生に、遊ぶことばかり考えているとは思われたくなかったから
エ 新しい教室でよく初めての先生の話に、ひとり緊張していたから
オ シンサクにとってはあまり考えたくない話題だったから

3 — 線③「夏はハツコマ山登山だ」とありますが、「ハツコマ山」とはどのような山だと思われますか。ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 村の人々を常に見守るように、顔を上げればそこにある山
イ 時に自然の厳しさを見せる、幼い子どもが容易には登れぬ山
ウ 低い山なみを従えているように見えるここいらではずいぶん高い山
エ 中学生となった記念として挑ませるのにふさわしい山
オ 白まだらの大蛇と呼ばれ、地域の人にも恐れられている山

4 — ④にあてはまることばとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい

ア いくたびも見てきた夢のように
イ うっとりする初恋のように
ウ 両手にのったあぶくのように
エ 白みゆく明け方の星のように
オ 砂に吸われる水のように

5 — 線⑤ 「次の日、シンサクは腹がいたいと言って起きなかった。」とありますが、それはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 母ちゃんがいもを早堀りして売りに行くのを止められなくなってしまったため
イ 妹のシズ子もおどろくほどに、なまいもをたらふく食ってしまったため
ウ 遠足に行こうとためてきたお金がなくなったことを受け止めきれなかったため
エ べんとうだけ持ってこいという先生の言葉でおねがいっぱいになったため
オ あれだけ稼いだにもかかわらず望みが叶わなかったことを母にあてつけるため

6 — 線⑥ 「泣きながらしゃぶりつくシンサク」とありますが、シンサクはなぜこのような様子なのですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 朝ごはんを食べねば走ることなどできないから
イ 黙って金を使った母ちゃんには反発せずにはいられなかったから
ウ 今更列に加わるなんて恥ずかしくてできないと思ったから
エ どうしても自分で稼いだお金で遠足に行きたかったから
オ 遠足に参加することはかなわないと決めてかかっていたから

7 この文章では次の一文がぬけており、この一文は一つの段落になっています。この一文が入るところとしてふさわしいものを【A】～【E】の中から一つ選び、記号で書きなさい。

シンサクは、こんなに美しいものを見たことがなかった。

⑤ 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

注1 妖術ようじゆつが疑われるのは、大体悪いことが起こった時です。病氣や事故だけではなく、頑張がんばっているのに試験に落ちた時、何十社にも書類を出したのに就職が決まらない時、恋人こいびとからフラれ続ける時、商売でいつもより上手うまくない時など、日常の様々な局面で妖術が疑われます。

そんなの合理的じゃない、とみなさんはおもひもありません。病氣は病原菌びやうげんきんのせいだし、試験に落ちるのは自分の努力不足だろうし、就職は適性がなかったのか、たまたま運が悪かっただけだろう、と。しかし、注2 ベナンの人々だって、病氣が病原菌に注3 起因するものだったり、適性がなければ就職できなかったりすることぐらい、わかっているのです。けれども、周囲で適性がない人が就職していつている中、自分だけ就職が見つからなければどうでしょう。人々が求めているのは、①Aにそういうものだ」という法則ではなく、①Bな「私の」状況を説明してくれるものなのです。

ベナンの人々も、病氣はなんでも妖術のせいだと言っているわけではありません。病院に行つて検査を受けても原因が見つからない。あるいは、治療ちりやうして一旦治いったんまってもすぐに違ちがう症状しやうじやうが始める。②こんな時にベナンの人は妖術師ようじゆつしの仕業しわざではないかと疑い始めます。

みなさんにとって「妖術」という説明は突飛とつびに聞こえるかもしれませんが、しかしでは、みなさんは本当に「病原菌」を見たことがあるでしょうか。それが一般的いっぱんてきに「ある」と言われ、「病氣の原因」だと教えられたから、そう思うのが当たり前だと思つているだけではないでしょうか。自分で見て確かめてもないのに、その存在を確信しているという意味では、「病原菌」も「妖術」も似たようなものといえるでしょう。だから、「妖術」という注4 説明ロジックを持つている文化が遅おくれていて非③だとかいうわけでは、全然ないのです。

エヴァンズIIプリチャードという有名な人類学者が、その昔アフリカ大陸に住む注5 アザンデ人の妖術について研究した時、一つの事例をあげています。④ある男が穀物倉庫の下で涼すずんでいたところ、倉庫が壊こわれてしまい男が怪我けがしてしまつたという話です。男が怪我したのは妖術のせいだとされました。こうして聞くときみなさんはどうも彼らかれは物理の法則をよく理解していないのではなにかと思ひもありません。確かに、男が怪我したのは壊れた倉庫のせいで、妖術なんて何の関係もないようにもみえます。しかし、エヴァンズIIプリチャードは、こう言います。彼らは穀物倉庫が白アリに喰くわれて時々倒たおれることがあることや、怪我した直接の原因が壊れた倉庫にあることくらいよく知っている。しかし、その説明では、なぜその男が倉庫の下で涼すずんでいるその時に崩壊ほうかいし、怪我したのか説明できないのだと。

「そんなの偶然ぐうぜんでしょう」

みなさんは言うかもしれません。けれど、「偶然」って何かを説明した言葉でしょうか。なぜそれがその時起こったのか、上手く説明できないから「偶然」という言葉で、理解したつもりになるのではないのでしょうか。その「偶然」が妖術によるものであることは、恐らく証明できないでしょう。けれどそれと同じくらい、その「偶然」に何らかの力が働いていないことも、証明できないのです。

日常生活は様々な「偶然」に満ちています。妖術とは、なぜ自分が自分に起こっているのかよくわからないことも多い日常生活を、上手く説明し、納得なっとくさせてくれるものだといえるでしょう。

村でいつも酔よっぱらっている人が「妖術をかけられたんだ」と言われることがあります。あるいは頑張ったのに試験に受からなかった生徒も、「妖術をかけられていたんだ」と見なされることがあります。こうした場合、日本ならどう言われるでしょうか。酔っぱらってばかりいる人は「意志が弱いからだ」、試験に受からない生徒は「努力不足だ」と言われるのではないのでしょうか。全部その人自身のせいになります。

そういう理解は、今後頑張らなきゃと思うきっかけにはなるでしょう。でも頑張ったって試験に受からないことはあるし、大人になればお酒を飲まないでおうとしても、飲んでしまうこともあるのです。そうした時に、自分が悪いんだと自分ばかり責めているのはとてもしんどいことですね。

そう考えると、色んな「偶然」や「コントロールできないもの」を妖術師の仕業だとする説明は、^⑤ そんなに悪いものではないように感じません。むしろ、色んな出来事を妖術で説明できる方が、自分ばかり責めているよりも、辛つらくない社会なのかもしれません。

日本だって不運が続けば、神社に厄やく払いに行く人はいますね。その延長線上にあるのが妖術であり、それを祓はらう儀礼ぎれいです。そう考えると、実は日本とアフリカの考え方は、そう遠くありません。儀礼をたくさんしなければいけないのは、傍目はために見ても大変そうなので、妖術があることが前提の社会が必ずしも生きやすいとは思いません。けれど、自分の生活を考える時に、目に見えないものの仕事を少し考えてみるのも、全てを自分の責任と背負いこまない一つの方法かもしれません。アフリカって「未開」とか「貧しい」とかいうイメージがあるかもしれませんが、アフリカには様々な豊かな文化があって、^⑥ アフリカから学ぶこと、実は色々あるのです。

(村津蘭『14歳の世渡り術 世界ぐるぐる怪異紀行』として「わからないもの」はこわいの?』河出書房新社による)

注1 妖術 Ⅱ 見えない不思議な力によって他者に対してわざわざいをもたらすこと

注2 ベナン Ⅱ 西アフリカに位置する国、作者が研究している現場となる場所

注3 起因する Ⅱ それが原因になって起こる

注4 説明ロジック Ⅱ 説明のすじみち

注5 アザンデ人 Ⅱ アフリカのほぼ中央に居住する民族

I ①A・①B にあてはまることばの組み合わせとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

A A 一般的・B 具体的

I A 統一的・B 個人的

ウ A 全体的・B 部分的

エ A 間接的・B 直接的

オ A 客観的・B 主観的

2 ———線②「こんな時」とありますが、それはどのような時ですか。その説明としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

A 自分自身の身の上に病気や事故などの悪いことが降りかかってしまった時

I ふつうでは信じられないようなとてつもないわざわいが起こってしまった時

ウ 自分自身に病気などのわざわいが起こっている理由や説明に納得がいかない時

エ 我が身に降りかかった病気などの悪いことがなかなか収束せずに続いている時

オ 病気をはじめとした人間の力では解決困難な悪い出来事が起こっている時

3

③ にあてはまることばを文章中から三字で探し、書きぬきなさい。

4 — 線④ 「ある男が穀物倉庫の下で涼んでいたところ、倉庫が壊れてしまい男が怪我してしまったという話」とありますが、その出来事の理由についてそれぞれの立場でどのように説明すると述べられていますか。次の（ ）にあてはまるかたちにして、Aは十五字以内、Bは三十五字以内で書きなさい。

怪我の原因について、現代のみなさんならば（ A 十五字以内 ） からだと説明するところを、アザンデ人は（ B 三十五字以内 ） からだと説明する。

（下書き用）

B					A		
				するところを、アザンデ人は	12		現代のみなさんならば
からだと説明する。	28				からだと説明		

5 —線⑤「そんなに悪いものではないように感じませんか」とありますが、それはなぜですか。その理由としてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 妖術により世の中のさまざまな出来事がコントロールされていると考えることで、悪い出来事をすべて他人のせいにすることができから

イ 妖術師をうらむことによって、怒りや失望などの感情を自分自身にぶつける必要がなくなり、自分自身を責めなくてすむようになるから
ウ 悪い出来事の原因は妖術師であると信じることによって、最初から努力する必要がなくなるから

エ 「偶然」や「コントロールできないもの」を自分の責任であると捉えて自分だけを責めることをせず、辛い思いをしなくてすむから
オ 「偶然」や「コントロールできないもの」が世の中に存在するという納得がいけない思いをしなくてすむから

6 —線⑥「アフリカから学ぶこと、実は色々あるのです」とありますが、ここに込められたメッセージを説明したものとしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で書きなさい。

ア 自分の生活を考える時に、目に見えない「妖術」の仕事を考えることで人間関係をスムーズにさせるというアフリカの知恵に気づいてほしい。

イ アフリカの目に見えないものを信じる文化は、個人だけに責任を押しつけることのないおおらかで豊かなものであることに気づいてほしい。

ウ アフリカへの先入観を捨てて、人生において不運にあった時のふるまいなどの点においてアフリカの文化には日本の文化との類似性があると認めてほしい。

エ アフリカの文化は、全てを自分の責任と背負いこんでしまう生き方を否定する、たがいを支え合う温かな社会を基盤とした文化であると知ってほしい。

オ 私たちにはなじみの薄いアフリカは、不幸な出来事が起きた時にそれを「偶然」のせいにしなくてきちんと責任追及をしていく社会システムであることを認めてほしい。

(問題はこれで終わりです)